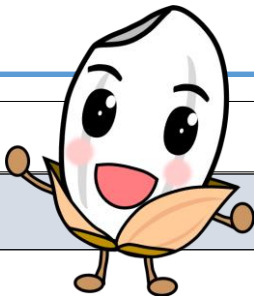


令和6年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第6号（水稻）

令和6年7月25日発表（対象期間：令和6年7月下旬～8月上旬）



1-（1）		水稻病害虫の現況と予報（概要）		
病害虫名		現況	予報	防除上の注意事項
穂いもち	北部（早生）	穂いもち やや少 	穂いもち やや少 	- 出穂前後の降雨により、穂いもちの発生が助長されます。穂ばらみ期、穂ぞろい期の穂いもちの基幹防除を徹底しましょう。 - にわか雨が多い場合は病勢が急激に進展するため、ほ場を見回り、葉いもちの多発が見られたほ場では直ちに防除しましょう。
葉いもち	中西部・中東部（中生）	葉いもち やや少 	葉いもち やや少 	
	南部（中生）	葉いもち やや多 	葉いもち 並 	
紋枯病		並 	やや多 	- 梅雨明け後に高温で経過すると感染が進み、発病株率が増加するので注意が必要です。 - 昨年、発生が多かったほ場は注意が必要です。 - 防除を行う判断の目安は、穂ばらみ期の発病株率が、早生品種で10%以上、中生品種で20%以上になった時です。
セジロウンカ		並 	並 	- 穂ばらみ期の防除を徹底しましょう。 - 一部の飼料用米では、特に注意しましょう。 - 要防除水準、幼穂形成期から穂ばらみ期に10頭/株以上
トビイロウンカ		並 (発生なし) 	並 	- 長期残効型箱施用剤を処理していない場合、ほ場での発生を確認し、発生が見られた場合は防除を行いましょう。 - 次の発生盛期は8月中旬です。 - 要防除水準：飛来後第2世代幼虫5頭/株以上
コブノメイガ		やや多 	やや多 	- 粒剤の防除時期は発蛾盛期（成虫が多く見られる時期）、粉剤・液剤の防除時期は発蛾盛期1週間後です。飛来後第2世代の発蛾盛期は、7月下旬の見込みです。 - 中生以降の品種で被害株率20%を超える場合、防除を行いましょう。
斑点米カメムシ類		多 	多 	- 早生品種では、被害が集中するため基幹防除を徹底しましょう。 - 近年、被害が拡大しているイネカメムシについては、出穂前の水田に侵入し、不稔症状を発生させることが確認されています。多発地帯では出穂始めに防除しましょう。 - 出穂期近くになっての畦畔などの除草は、カメムシ類を水田内に追い込むことになります。早生では除草を控え、中生では出穂2週間前までに除草を終えましょう。

①- 1 穂いもち 北部 (早生品種)		現況 (葉いもち)	予報 (穂いもち)
予報の根拠	●7月下旬巡回調査では、葉いもちの発生は確認されませんでした (-)。 ●中国地方1か月予報では、気温が高く、降水量も少ないため、いもち病の発生を抑制します (-)。 ●BLASTAMによる累積感染好適日は、平年よりも非常に高くなっています (+)。	やや少	やや少
(+) : 多発要因 (±) : 平年並 (-) : 少発要因			

【防除上の注意事項】

●出穂前後の降雨により、穂いもちの発生が助長されます。穂ばらみ期、穂ぞろい期の防除を徹底し、穂いもちの発生を予防しましょう。

●にわか雨が多い場合は病勢が急激に進展するため、ほ場を見回り、葉いもちの多発が見られたほ場では直ちに防除しましょう。

●葉いもちが多発しているほ場では穂ぞろい期防除の7～10日後に追加防除を行いましょう。

●以下の「ひろしま病害虫情報 病害虫図鑑 (普通作物)」もご覧下さい。

「病害虫図鑑 (普通作物)」

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/futsuusaku.html>

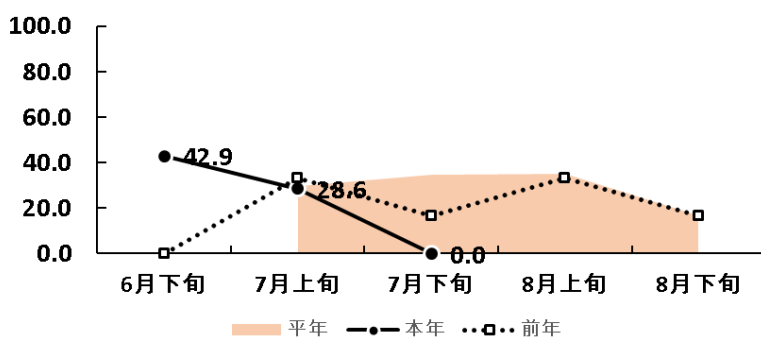
「水稻病害虫調査結果の詳細と発生予測～葉いもち発生予測システム」

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/suito-imotobi.html>

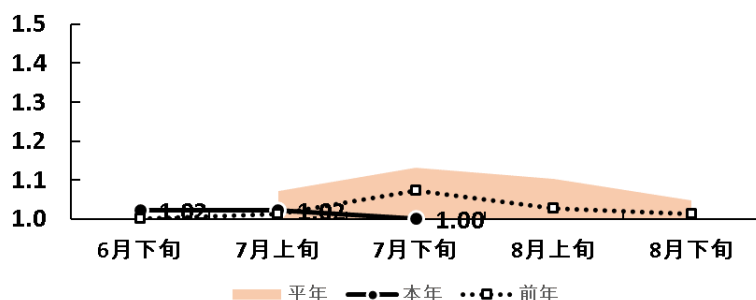


【巡回調査データ】

葉いもち 発生地点率(北部 8地点)



葉いもち 発生程度(北部 8地点)



①-2 葉いもち 中西部・中東部（中生品種）

現況
(葉いもち)

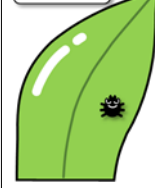
予報
(葉いもち)

予報の根拠

- 7月下旬巡回調査では、葉いもちの発生地点率は15.4%（平年57.5%）過去10年で最も少ない発生です。発生程度は1.04（平年1.2）で、過去10年で9番目の発生です（－）。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、降水量も少ないため、いもち病の発生を抑制します（－）。
- BLASTAMによる累積感染好適日は、平年並みとなっています（±）。

(+) : 多発要因
(±) : 平年並
(-) : 少発要因

やや少



やや少

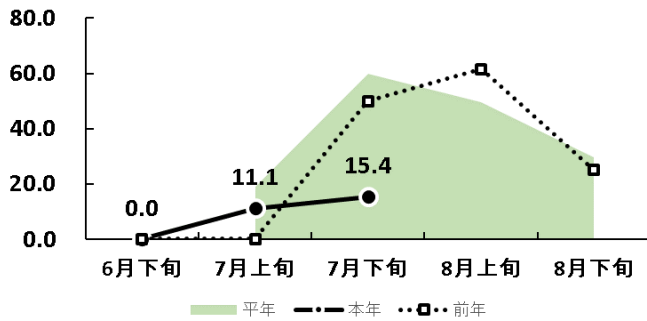


【防除上の注意事項】

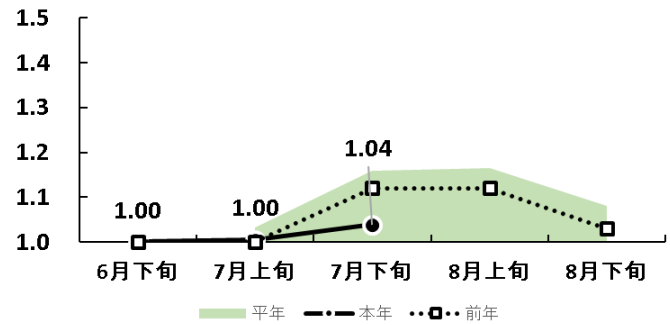
- 出穂前後の降雨により、穂いもちの発生が助長されます。穂ばらみ期、穂ぞろい期の防除を徹底し、穂いもちの発生を予防しましょう。
- にわか雨が多い場合は病勢が急激に進展するため、ほ場を見回り、葉いもちの多発が見られたほ場では直ちに防除しましょう。

【巡回調査データ】

葉いもち 発生地点率(中部・中生 9地点)



葉いもち 発生程度(中部・中生 9地点)



①-3 葉いもち 南部（中生品種）

現況
(葉いもち)

予報
(葉いもち)

予報の根拠

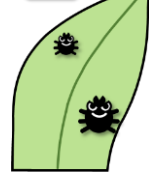
- 7月下旬巡回調査では、葉いもちの発生地点率が55.6%（平年49.5%）、発生程度は1.12（平年1.1）で過去10年でそれぞれ6番目、3番目の発生です（+）。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、降水量も少ないため、いもち病の発生を抑制します（－）。
- BLASTAMによる累積感染好適日は、平年並みとなっています（±）。

(+) : 多発要因
(±) : 平年並
(-) : 少発要因

やや多



並

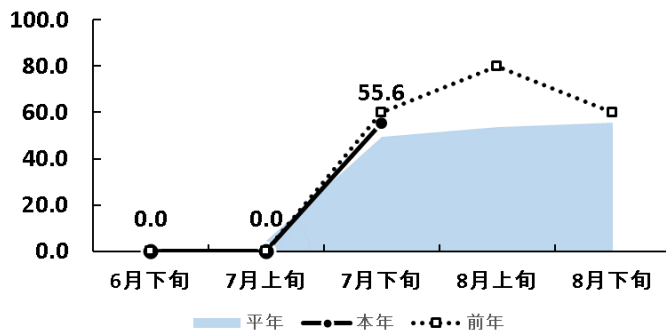


【防除上の注意事項】

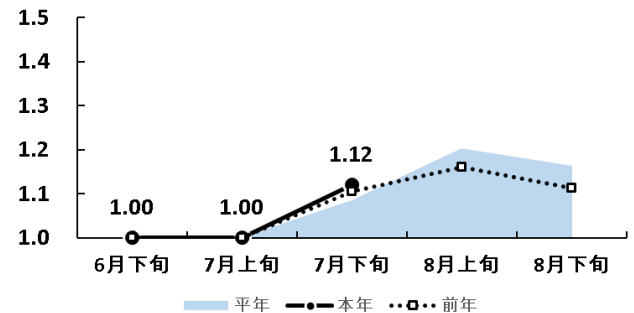
- 出穂前後の降雨により、穂いもちの発生が助長されます。穂ばらみ期、穂ぞろい期の防除を徹底し、穂いもちの発生を予防しましょう。
- にわか雨が多い場合は病勢が急激に進展するため、ほ場を見回り、葉いもちの多発が見られたほ場では直ちに防除しましょう。

【巡回調査データ】

葉いもち 発生地点率(南部 8地点)



葉いもち 発生程度(南部 8地点)

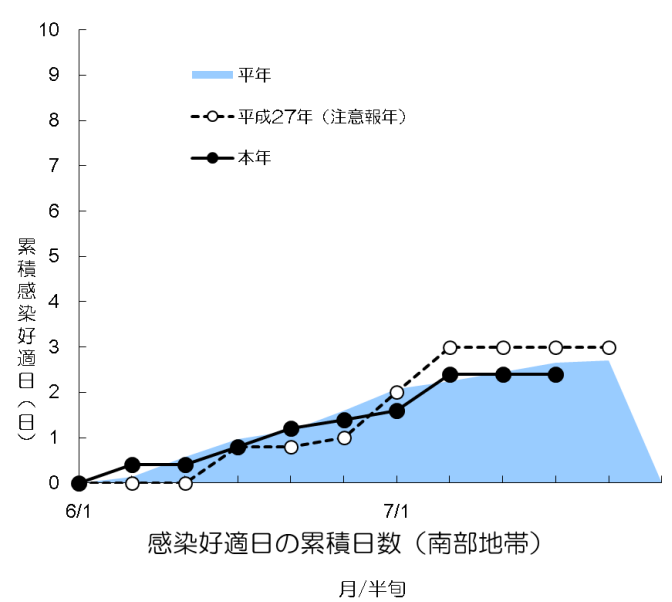
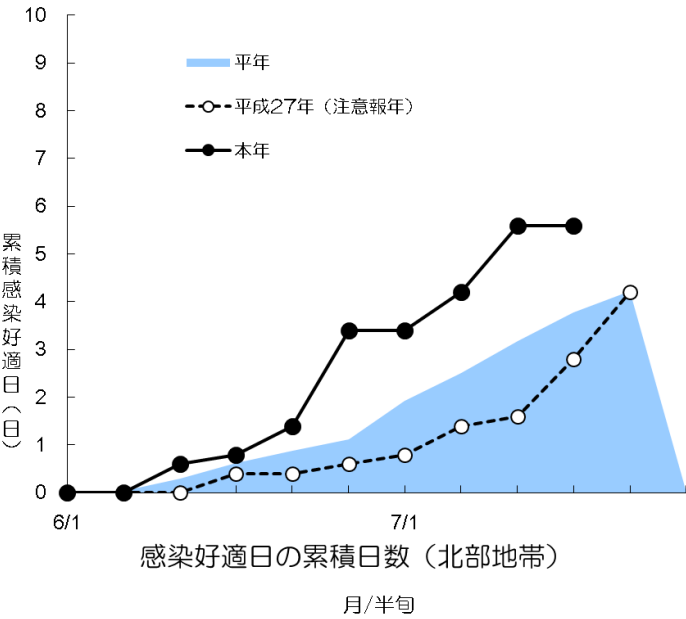
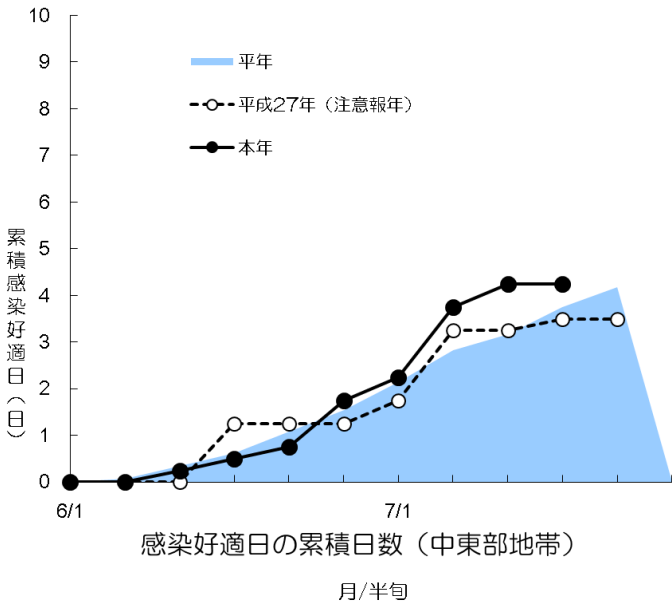
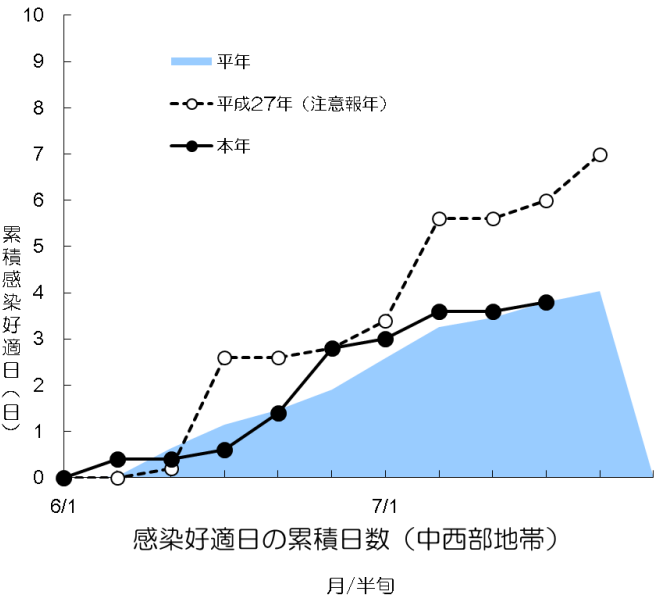


BLASTAMによる「いもち病の危険度」の推定

地帯別「いもち病の感染好適日」の累積日数

※ いもち病の発生しやすさを予測するシステム：BLASTAM（ブラスタム）を用いて、気象庁のアメダスデータ（気温、降水量、風速、日照）から、葉面の湿潤時間を計算し、いもち病が発生しやすい条件となる日：感染好適日を推定しています。

※ 累積感染好適日とは、BLASTAMによる感染好適日を累積したものです。値が大きい程いもち病の発生リスクが高いと予想されます。



② 紋枯病

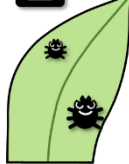
現況

予報

予報の根拠

- 7月下旬巡回調査では、平均発生株率が14.3%（平年15.2%）で過去10年で5番目の発生でした（±）。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、紋枯病の発生を助長します（+）。

並



やや多



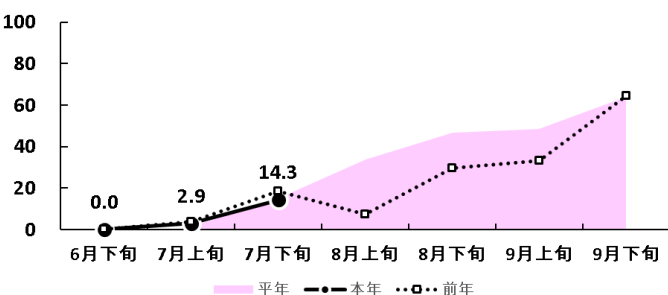
【防除上の注意事項】

- 高温、多湿を紋枯病菌は好みます。梅雨明け後の高温や降雨や曇天が続くことが予想されるときは防除を徹底しましょう。
- 昨年発生が多かった場合は、越冬した菌核量が多く注意が必要です。
- 薬剤防除は病斑が上位葉鞘に進展してくる穂ばらみ期～出穂期が適期。薬剤は、病患部の葉鞘によく付着するよう株元をねらって散布しましょう。
- 要防除水準；穂ばらみ期の発病株率が、早生品種で10%以上、中生品種で20%以上。

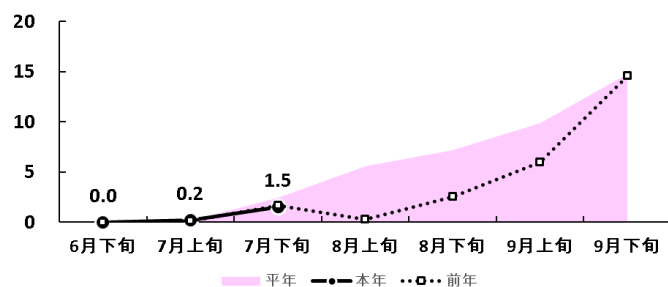


【巡回調査データ】

紋枯病 発生地点率（県全域34地点）



紋枯病 発生株率（県全域34地点）



③ セジロウンカ

現況

予報

予報の根拠

- 7月下旬巡回調査では、発生地点率が62.9（平年70.8）で平年並でした（±）。
- 予察灯では、7月第3～4半旬に64頭確認されました（+）。
- 予察田では、7月第5半旬に100株当たり362頭（平年228頭）となっており、過去10年で2番目に高い（+）。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、増殖に不適です（-）。

並



並

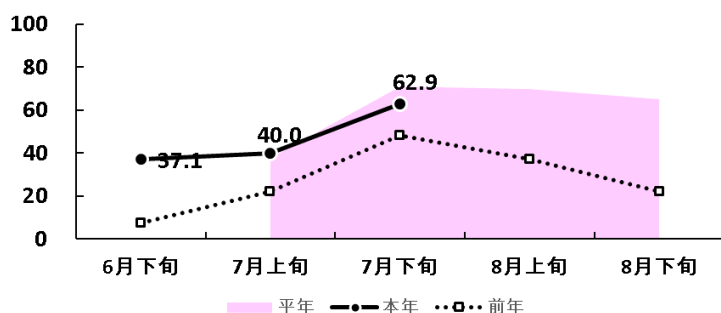


【防除上の注意事項】

- 次の幼虫発生盛期は8月中旬です。基幹防除を徹底、発生量が多い場合は防除しましょう。
- 出穂期以降は通常防除の必要はありません。
- 要防除水準：幼穂形成期から穂ばらみ期に10頭/株以上
- ウンカ類の払落し調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「調査の方法」をご覧ください。

【巡回調査データ】

セジロウンカ 発生地点率（県全域 34地点）



長翅型成虫



中老齢幼虫

④ トビイロウンカ

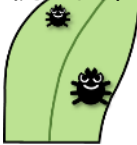
現況 → 予報

予報の根拠

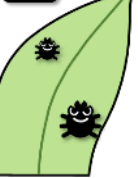
- 7月下旬巡回調査では、確認されていません（－）。
- 予察灯（呉市）で、6/24と7/12に雌成虫が1頭ずつ確認されました（＋）。
- 予察灯（東広島市）、予察田（呉市）では、確認されませんでした（±）。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、増殖に不適です（－）。

並

（発生なし）



並

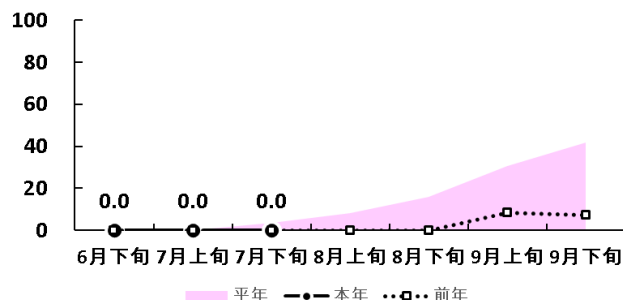


【防除上の注意事項】

- 中生品種で、長期残効型箱施用剤（トリフルメゾピリム含有）を処理していない場合、ほ場での発生を確認し、発生が見られた場合は防除を行いましょう。
- 次の発生盛期は8月中旬です。
- トビイロウンカの幼虫は、株元に多く生息するため、粉剤や液剤により防除を行う場合は、薬剤が株元に十分届くよう散布しましょう。
- 要防除水準：飛来後第2世代幼虫5頭/株以上
- ウンカ類の払落し調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「調査の方法」をご覧ください。

【巡回調査データ】

トビイロウンカ 発生地点率(県全域 34地点)



長翅型成虫



短翅型成虫



中老齢幼虫

⑤ コブノメイガ（中生）

現況 → 予報

予報の根拠

- 7月下旬巡回調査では、平均発生株率が68.6%（平年17.5%）で過去10年で2番目に高くなっており、要防除水準を超えるほ場の割合は11%（18地点中2地点）となっています（＋）。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、増殖に好適です（＋）。

やや多



やや多

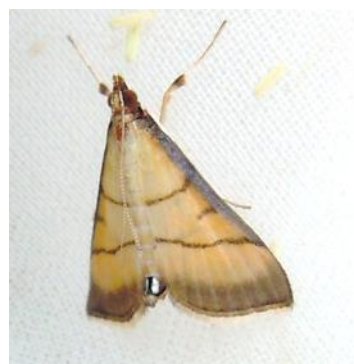
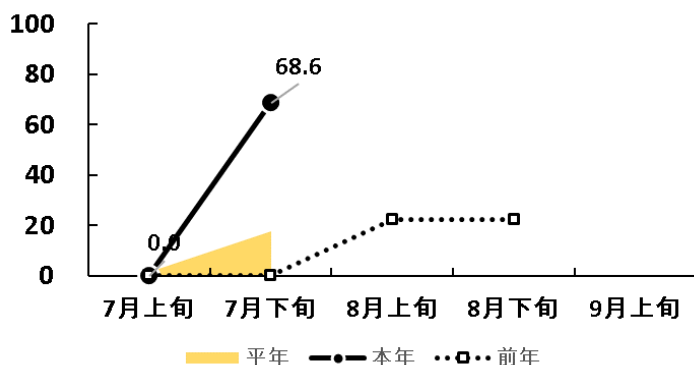


【防除上の注意事項】

- 粒剤の防除時期は発蛾盛期（成虫が多く見られる時期）、粉剤・液剤の防除時期は発蛾盛期1週間後です。飛来後第2世代の発蛾盛期は、**7月下旬**の見込みです。
- **中生以降の品種で被害株率20%を超える場合、防除を行いましょう。**

【巡回調査データ】

コブノメイガ 発生地点率(県全域 34地点)



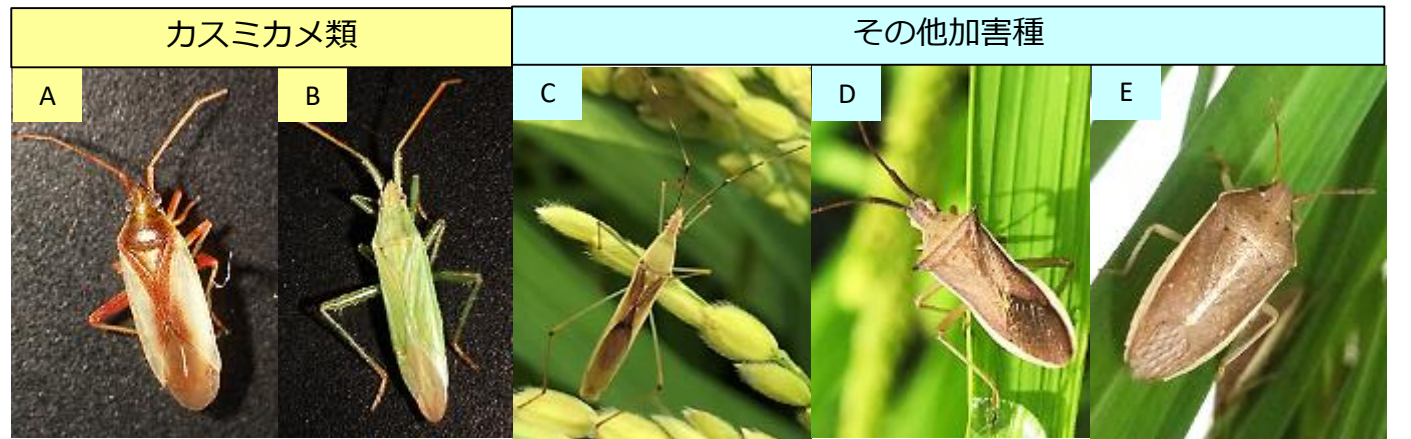
成虫



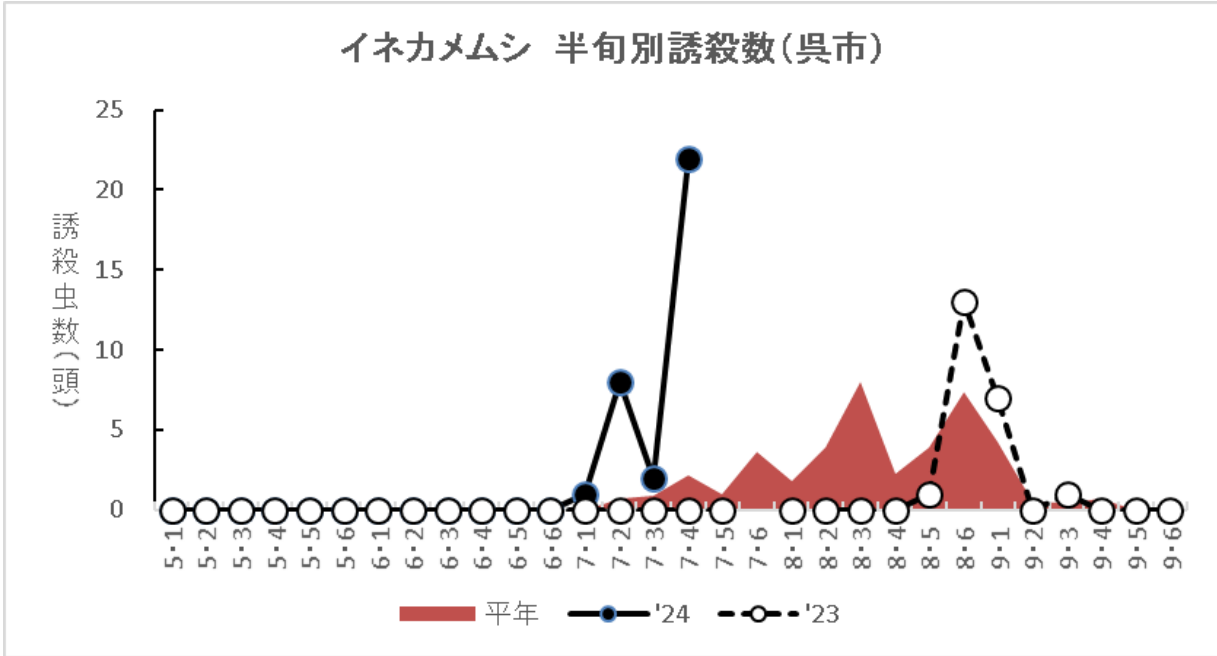
被害葉

⑥ 斑点米カメムシ類		現況	予報
予報の根拠	●イネカメムシの7月第4半旬までの予察灯（呉市）への累積誘殺数は33頭（平年3.7頭）となっており、過去10年で最も高くなっています（+）。 ●極早生品種・早期栽培稲におけるすくい取り調査では、発生の多いほ場が見られ、要防除ほ場率は59.3%でした（+） ●南部地域でイネカメムシ、クモヘリカメムシの発生の多いほ場が見られます（+）。 ●中国地方1か月予報では、気温が高く、降水量が少ないため増殖に好適です（+）。		
（+）：多発要因 （±）：平年並 （-）：少発要因			

- 【防除上の注意事項】
- 斑点米被害は、カメムシ類の成虫または幼虫がイネの出穂期以降に穂を吸汁し、吸汁痕が褐変して玄米表面に斑紋をつくることで起きます。したがって、防除の目的は出穂期以降のカメムシ類の密度低下にあります。
 - 早生品種では、被害が集中するため基幹防除を徹底しましょう。
 - 近年、被害が拡大しているイネカメムシについては、出穂前の水田に侵入し、不稔症状を発生させることが確認されています。多発地帯では出穂始めに防除しましょう。
 - 出穂期近くになっての畦畔などの除草は、カメムシ類を水田内に追い込むことになります。早生では除草を控えるようにしましょう。中生では出穂2週間前までに除草を終えましょう。
 - 要防除水準：（カスミカメ類）4頭以上／20回振り、（その他加害種）2頭以上／20回振り
 - 防除時期：（カスミカメ類）出穂期～その10日後に1～2回。
（その他加害種）出穂7日後～14日後に1～2回。
※イネカメムシは出穂期とその10日後に防除することが効果があると言われています。
 - 斑点米カメムシ類の調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「調査の方法」をご覧ください。



A：アカスジカスミカメ、B：フタトゲムギカスミカメ、その他加害種C：クモヘリカメムシ、D：ホソハリカメムシ、E：イネカメムシ



病害虫名	現況	防除上の注意事項
ヒメトビウンカ	少 	出穂前後の防除を徹底する。 また、縞葉枯病を発病した株は抜き取りましょう。
フタオビコヤガ	少 	穂ばらみ期防除を基本に実施しましょう。

(広島地方気象台 7月25日発表、7月27日から8月26日までの天候見通し)

- 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
- 向こう1か月の平均気温は、高い確率80%です。
- 週別の気温は、1週目は高い確率80%、2週目は高い確率80%、3～4週目は高い確率70%です。

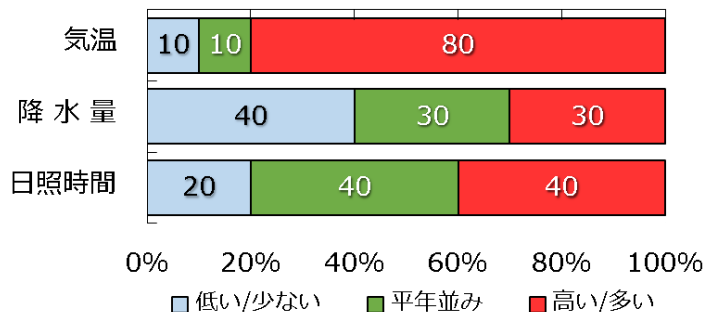


図1. 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率 (%)

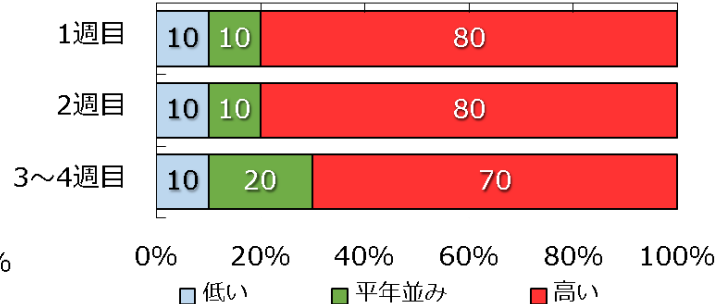


図2. 向こう1か月の気温経過の各階級の確率 (%)

6月1日から8月31日まで、**農薬危害防止運動**実施中！
農薬を使う際は、容器のラベルをよく読んで、使用方法や注意事項を守り、農薬による危害と事故を防ぎましょう。





【現況・予報の区分について】

「現況」「予報」は、「多、やや多、並、やや少、少」の5階級に区分しています。区分は、原則として過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ、相対比較しています。

- 「多」 : 1番目（最多年）と同程度以上
- 「やや多」 : 2～3番目と同程度
- 「並」 : 4～7番目と同程度
- 「やや少」 : 8～9番目と同程度
- 「少」 : 10番目（最少年）と同程度以下



●PCでアクセス

ひろしま病害虫情報

検索

掲載アドレス↓

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>

●スマホでアクセス

ひろしま病害虫情報

QRコードはこちら →



お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム
〒739-0151 東広島市八本松町原6869
電話：082-420-9662（直通）